

## 12. 外国語活動論文

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

### コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの育成 ～言語や文化の体験的な理解を重視した外国語活動カリキュラムの創造～



I 研究の目的	145
1 研究の背景	145
2 研究の方向	145
II 研究内容	146
1 コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもとは	146
2 言語や文化の体験的な理解を重視したカリキュラム創造の基本的な考え方	147
3 外国語活動カリキュラムの全体構想	148
(1) 学習内容の系統性を重視した単元配列の見直し	148
(2) 体験的な理解を重視した言語活動の充実	148
(3) 道徳教育との関連を重視した学習内容の位置付け	149
(4) 各教科等や実生活との関連を重視した学習内容の位置付け	149
4 外国語活動カリキュラムの具体化	150
(1) 学習内容の系統性を重視した単元配列の見直し	150
(2) 体験的な理解を重視した言語活動の充実	150
(3) 道徳教育との関連を重視する学習内容の位置付け	151
(4) 各教科等や実生活との関連を重視した学習内容の位置付け	151
III 研究の実際	152
1 実践の立場	152
2 第5学年 外国語活動 年間指導計画	152
3 第5学年「時間割を作ろう」における実践	153
4 実践の結果と考察	156
IV 研究の成果と課題	156
1 研究の成果	156
2 研究の課題	156

【学校教育目標】

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成 【校訓】 まことの子・ちからの子・のぞみの子

【目指す子ども像】

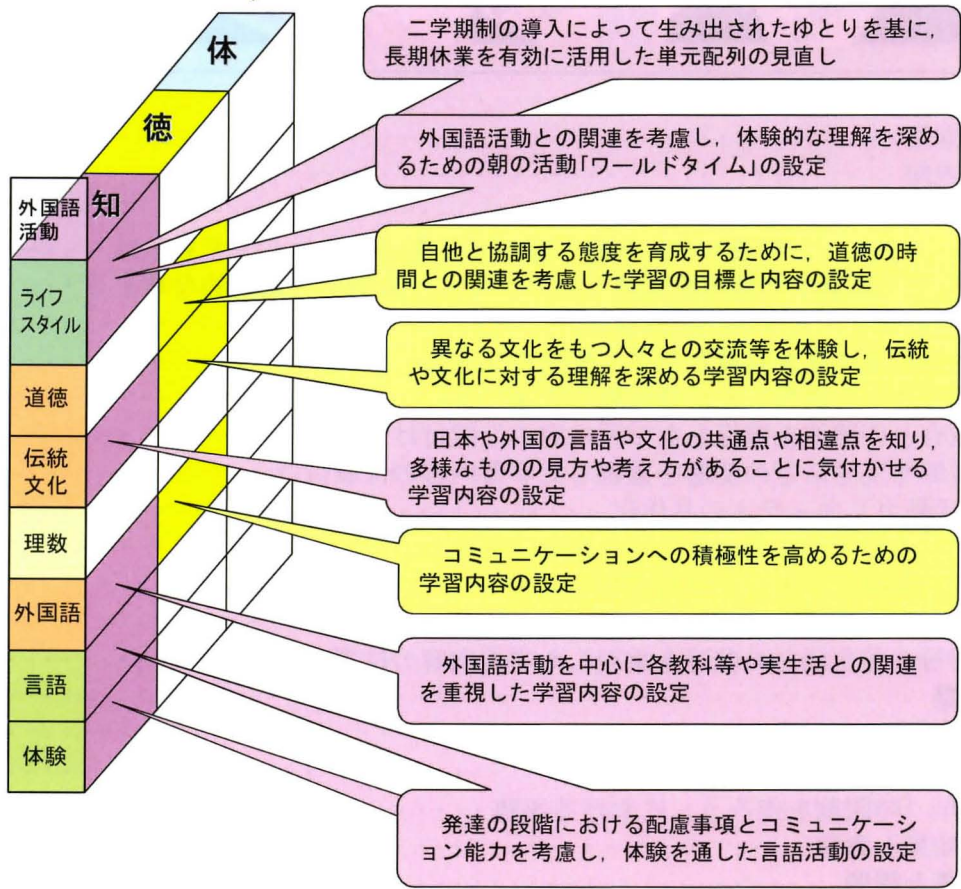
(知) 互いの考えに学び合う子ども (徳) 心と心がひびき合う子ども (体) 心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

確かな学力の面から ○論理的な思考 ○伝え合う方法の習得 ○学が喜びや楽しさの実感	豊かな心の面から ○人間関係(他者意識) ○自己の発揮の仕方 ○多様な体験	健やかな体の面から ○基礎体力 ○生活習慣 ○健康・安全
---	---	---------------------------------

【確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム】

		健やかな体をはぐくむ観点(体)													
		豊かな心をはぐくむ観点(徳)													
カリキュラム創造の視点		確かな学力をはぐくむ観点(知)													
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	外国活動	総合	特活	複式
カリキュラム創造の視点	枠組	学校のライフスタイルの見直し													
	内容	道徳教育の充実													
		伝統や文化に関する教育の充実													
		理数教育の充実													
		外国語教育の充実													
	方法	言語活動の充実													
体験活動の充実															



## I 研究の目的

### 1 研究の背景

社会や経済のグローバル化に伴い、学校教育において外国語教育を充実させることが重要な課題の一つとなっている。その背景を踏まえ新設された外国語活動では、第5・6学年を対象に、コミュニケーション能力の素地を養い、中・高等学校での外国語教育へ円滑に接続することが求められている。そこでは、外国語を通じて「言語や文化についての体験的な理解」、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」、「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」が重視されている。

本校では平成5年度から、全学年において毎週1時間の外国語活動に取り組んでいる。わたしたちは、新学習指導要領の理念と学校教育目標の実現に向けて、本校の従来の授業プランと「英語ノート」を効果的に活用しながら、授業実践及び研究を進めてきた。その中で、子どもたちの発達の段階と外国語経験年数を踏まえ、小学校におけるコミュニケーション能力(主に方略的能力・社会言語的能力)を培う授業創造の基本的な考え方を明確にしてきた。

本校の子どもたちの実態として、以下のことが挙げられる。(○：成果，●課題)

- 外国語で話をしようとする意欲が高く、音声やリズム、強弱等に身体も用いて慣れ親しんでいる。
- こうすれば外国の人と話ができるかもしれないと考え、表情やジェスチャー等を交えて自分の思いを伝えようとする。
- 外国の文化に対する興味・関心が高く、自ら行きたい国について積極的に調べる。
- 自分と相手の違いには気付くものの、互いのよさを認め協調していこうとする態度をもっと高める必要がある。

この実態を踏まえ、本校における外国語教育の一層の充実を図る必要があると考える。

### 2 研究の方向

昨年度の研究では、新学習指導要領の改訂内容を踏まえて、高学年を中心にコミュニケーション能力の素地を養う学習活動を設定した。また、本校の研究を反映した授業プランと「英語ノート」とを比較・分析し、小学生の発達の段階に応じたコミュニケーション場面、取り扱う語彙や表現を表1のように明らかにすることができた。

そこで本年度は、全学年における子どもたちを対象にして、コミュニケーションを図る道具としての言語を運用する力を高めると共に、互いの文化に対して体験的に理解し、各々尊重する態度を育成することを重視していきたい。そのためには、各学年の発達の段階や外国語経験年数、学習内容の系統性や各活動の特性を踏まえたカリキュラムを具体化していく必要がある。

さらに、外国語教育の充実を図るために、外国語活動以外の活動においても、子どもたちがより積極的にコミュニケーションを図り、日本や外国の言語や文化についての理解を通して相手とより深く分かり合えることが重視される。そこで、各教科等や朝の活動等との関連性も踏まえ、広い視野をもち調和のとれたカリキュラムを目指す必要があると考える。

これらのことから、本年度の研究主題と副題を次のように設定し、研究を進めていくことにした。

**コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの育成  
～言語や文化の体験的な理解を重視した外国語活動カリキュラムの創造～**

【表1 英語ノートとの比較により設定した新授業プラン一覧の例】

領域	第5学年	第6学年
ゲーム遊び	『英語でゲームを楽しもう』 ○ 自己紹介に必要な表現を使って自己PRをする場面 (例) 誕生日や住所、電話番号等を紹介する。 ・ What's your name? ・ Where do you live? ・ When's your birthday? (英ノ)『自己紹介しよう(1)』	『まるごと アルファベット!』 ○ アルファベットを使っていろいろなゲーム活動をする場面 (例) 文字を書いたり、読んだりしてアルファベットに慣れ親しむ。 ・ What's this? ・ It's ~. A-Z等 (英ノ)『アルファベットで遊ぼう(2)』
ごっこ活動	『町に出かけよう』 ○ 場所を尋ねたり案内をしたりする時に必要な表現を使って道案内をする場面 (例) 方向や建物の英語を知って、道案内をする。 ・ Go straight. ・ Turn right. ・ Turn left. ・ next to ~ ・ between ~ and ~ (英ノ)『道案内しよう(2)』	『外国に出かけよう』 ○ パスポート作りやゲーム活動を通して、英語を使って空港で会話をする場面 (例) 入国手続きに必要な表現を学んで、発話する。 ・ How long are you going to stay? ・ For 10 days. ・ Where are you going? (英ノ)『行ってみたい国を紹介しよう(2)』

## II 研究内容

### 1 コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもとは

本校の外国語活動部では、コミュニケーションの素地を育成するために「言語についての体験的な理解」「積極的にコミュニケーションを図る態度」「外国の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」という三つの観点を相互に補完し合いながら高めることを重視してきた。子どもたちは外国語を記憶するのではなく、十分に聞き、真似しながらでも発話して試みることによって、自然に外国語独特のリズムや音に慣れ、場面に応じた適切な外国語の運用の仕方を身に付けようとする。そして、楽しい活動の中で十分に慣れ親しんだ外国語で自分の思いが伝えられた喜びを味わい、コミュニケーションを図ることができたことへの達成感や満足感を味わうことができると考える。

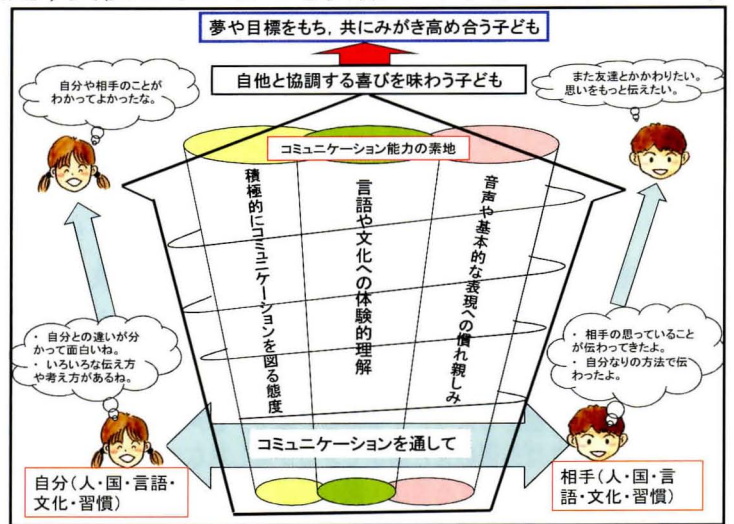
さらに、子どもたちは自分と相手とのコミュニケーションを通して、自身のことや互いの国の言語・文化・生活習慣等における共通点や相違点に気付くことができる。

そして、互いのよさに気付き、認め合い、

共に高め合おうとすることで、協調する喜びを味わうことができる。そこには、何とかして相手に自分の思いを伝えようとする方略的能力や、相手・目的・場面を考えて発話しようとする社会言語的能力等、小学校期にふさわしいコミュニケーション能力が必要とされる。

これらのことを踏まえ、本校では「コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子ども」を「自分と相手とかかわる中で、自分との共通点や相違点を知り、各々のよさを認め、協調できたことで自分の活動に達成感や満足感を覚え、相手と積極的にかかわろうとする態度をさらに高めるような子ども」ととらえ、目指す子ども像として図1のように設定した。これは、本校の学校教育目標に迫るものであると考える。

さらに、新学習指導要領の目標や本校外国語活動における目標を比較・分析して、目指す子どもの姿を三つの観点から捉え、各学年の発達の段階に応じて表2のように設定した。



【図1 コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの姿】

【表2 各学年における目指す子ども像】

目 標	第1学年	第2・3・4学年	第5学年	第6学年
言語や文化についての体験的な理解	外国の歌やゲーム活動に親しもうとする。	外国語や外国の生活等に関心をもとうとする。	様々な外国語や世界中の文化を知り、理解しようとする。	世界には様々な英語の表現方法があることを知り、より深く理解しようとする。
コミュニケーションへの積極性	A L Tや友達と外国語を使った活動を通して、楽しく遊ぼうとする。	外国語を聞いたり、話したりして、活動に必要な会話表現に親しもうとする。	外国語を通じて自分の意見を積極的に伝えようとする。	外国語を通じて相手の意見を積極的に聞き、自分の意見を積極的に伝えようとする。
外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ	A L Tの発話をまねて元気よく発話しようとする。	リズムや音調、語のアクセントや発音に親しみながら、適切な音量で話したり、尋ねたりしようとする。	様々な外国語を積極的に発話しようとする。	世界の様々な文字に興味をもち、積極的に発話しようとする。

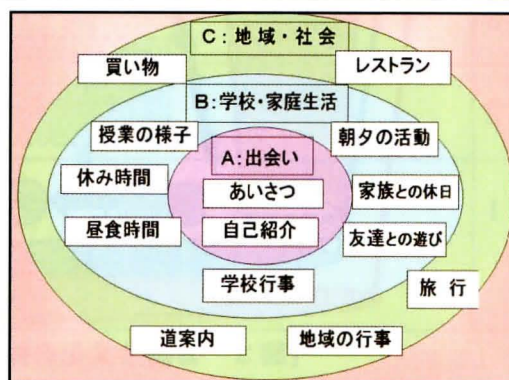
## 2 言語や文化の体験的な理解を重視した外国語活動カリキュラム創造の基本的な考え方

前述した子ども像に迫るためには、ALTや友達とゲーム活動等を通して、コミュニケーションを図ったり、異なる言語や文化をもつ人々と交流したりして体験的に理解させることが大切である。つまり、言語を用いてコミュニケーションを図ることで、コミュニケーションの大切さを考えさせたり、言葉の面白さや豊かさに気付かせたり、さらには、日本と外国との生活、習慣、行事等の共通点や相違点を知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせたりすることが大切である。そうすることで、互いの国の言語や文化を理解し、よさを認め合い、共存していこうとする態度が高まると考える。

そのために、各学年の発達の段階に応じて日本や外国の言語や文化を系統的に体験させる必要がある。そこで、言語や文化の体験的な理解を重視したカリキュラムを創造するために、以下の四つの視点を設定した。

### 視点1 学習内容の系統性を重視した単元配列の見直し

本校では、図2のように自分を中心に置き広がるような「言語の使用場面」を構成し、学習内容を設定している。子どもにとって、自分と身近な場面を扱うことは親しみやすさを感じるとともに、相手との共通点や相違点を見出しやすい。また、多様なものの見方や考え方があることに気付きやすいと考える。そこで、図2の言語の使用場面を考慮し、英語ノートや各教科等の内容、様々な行事等の関連も図った単元配列を行う。また、二学期制の導入による利点（長期休業の活用、授業時数の増加等）も生かせるような単元配列を行う。



【図2 言語の使用場面】

### 視点2 体験的な理解を重視した言語活動の充実

体験的な理解を重視した言語活動とは、学習する言語の背景を絵や写真、実物等で味わったり、学習した世界の文化等を実際に体験する中で必要な言語を発話したりする活動である。ここでは、図2をもとに、発達の段階に応じた語彙や表現を取り扱うとともに、言語の系統性も考慮した言語活動を盛り込んでいく。その際、子どもの興味・関心や発達の段階を考慮し、体験を通じた活動を関連させながら行うようにする。

### 視点3 道徳教育との関連を重視した学習内容の位置付け

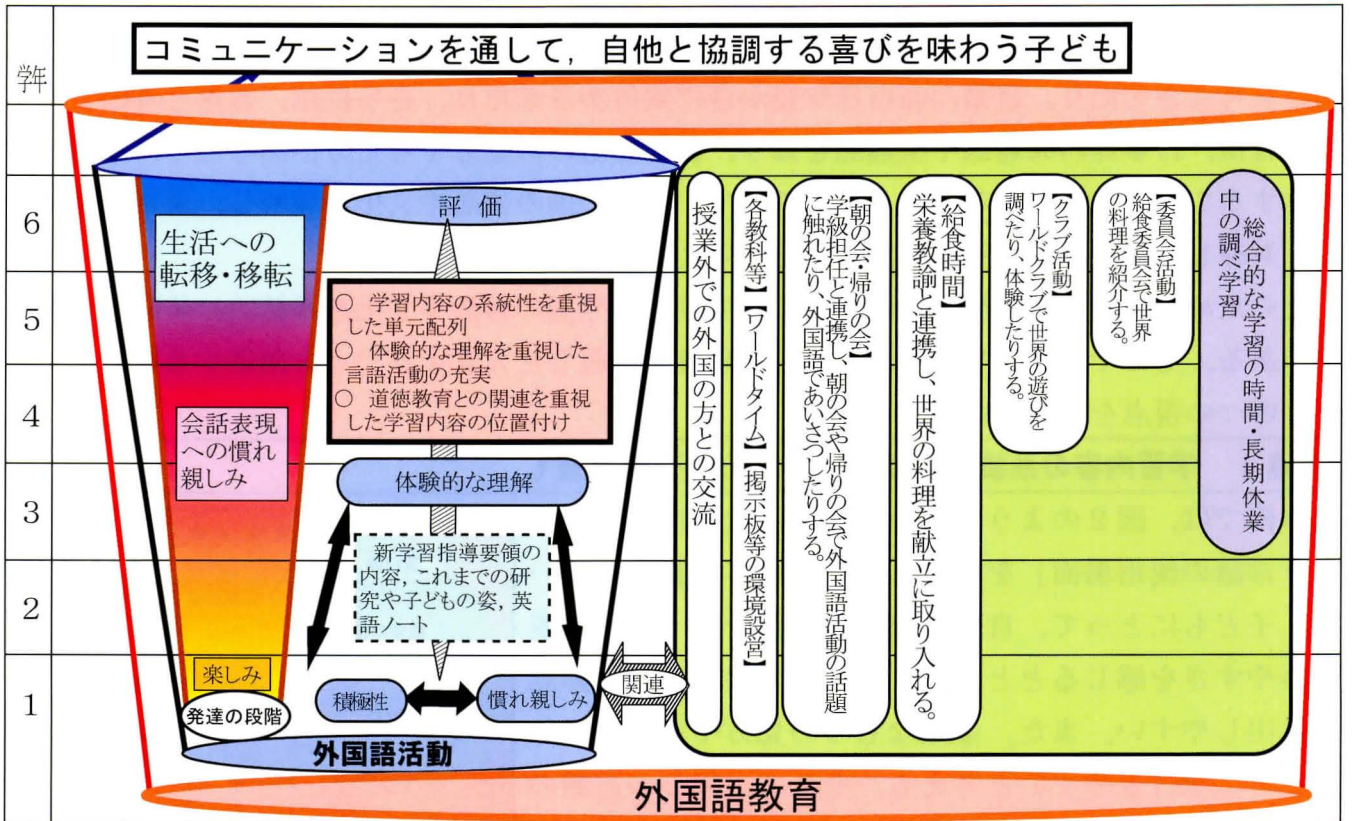
目指す子ども像に迫るために、心情面への理解から道徳教育との関連を考慮する必要がある。そのために、相手や場面に応じた思いやりのある表現を考えさせたり、相手と協力したりする学習内容を位置付けることで、自他と協調する態度を養うようにする。

### 視点4 各教科等や実生活との関連を重視した学習内容の位置付け

外国語教育の充実を図るために、授業以外でも、各教科等や朝の活動等との関連を図り、外国語を学ぶことの意義や、コミュニケーションを図ることのよさを感じさせるようにする。また、子どもの生活経験の中から学習内容や語彙や表現との結びつきを考えさせたりする。

3 外国語活動カリキュラムの全体構想

前述した四つの視点をもとに、言語や文化の体験的な理解を重視する外国語活動カリキュラムを以下の図3のように構想した。



【図3 言語や文化の体験的な理解を重視した外国語活動カリキュラム】

(1) 学習内容の系統性を重視した単元配列の見直し（視点1）

体験的な理解を段階的に深めるために、出会い(あいさつ・自己紹介)の場面から学校・家庭生活、地域・社会生活の場面と発達の段階や外国語経験年数を考慮した単元配列を行う。

まず、第5・6学年の単元配列を見直す際には、これまでの研究に見られた子どもの姿、英語ノートの内容も踏まえて設定する。次に、第1～4学年の単元配列においては第5・6学年の学習内容の系統性や時期を考慮しつつ、各教科等や行事等との関連も重視する。さらに、実際に自分で調べたり、自分なりに体験をしたりすることでより深く理解が得られるような単元では、調査・体験活動に取り組めるよう、長期休業を挟んだ配列を行う。

(2) 体験的な理解を重視した言語活動の充実（視点2）

体験的な理解を重視した言語活動を充実させるためには、図2の言語の使用場面で扱う語彙や表現を活用しながら、コミュニケーション能力を発揮させることが重視される。その際、これまでの子どもの姿や新学習指導要領に示された配慮事項を考慮する。また、それぞれの活動の内容を関連付け、発展させていく。具体的には、楽しさ、会話表現への親しみ、生活への転移・発展という配慮事項を基に、取り扱う語彙や表現を設定する。そして、設定した語彙や表現を活用し、方略的能力や社会言語的能力等のコミュニケーション能力を発達の段階ごとに発揮させながら、言語活動を行い、互いに思いを伝え、分かり合えるようにする。

つまり、表3のような発達の段階における配慮事項とコミュニケーション能力を考慮し、

体験を通じた活動と関連させながら言語や文化を理解させる活動を重視していく。

【表3 発達の段階における配慮事項とコミュニケーション能力】

学年	配慮事項 (※学習指導要領 0本校)	コミュニケーション能力	体験的な理解を重視した言語活動例
第1学年	○ 楽しさ		
第2学年			
第3学年	○ 会話表現への親しみ		
第4学年			
第5学年	※ 外国語を初めて学習する。 ※ 身近で基本的な表現 ※ 外国語に慣れ親しむ活動 ※ 日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に友達とのかかわりを大切にしたコミュニケーション活動 ○ 生活への転移・発展	方略的能力(絵やジェスチャー等)・社会言語的能力(目的) 方略的能力(推測等)・社会言語的能力(相手) 方略的能力(言い換え等)・社会言語的能力(場面) 談話能力	フルーツの英語を体を動かしながら発話する。 グループで協力しながら「○○」活動を通して、買い物に必要な英語を発話する。 スネラー先生の国のハロウィーンの話聞いて、外国の文化を知る。ハロウィーンパーティーを通して、ハロウィーンの際に必要な表現を発話する。(英語ノート1の活用) 外国の「大きなかぶ」の話聞いて、日本の表現と違うところを知る。これまでに学んだ英語の表現を使って、実際に友達と協力して劇を作る。(英語ノート2の活用)
第6学年	※ 5年の学習を基盤とし、友達とのかかわりを大切にする。 ※ 国際理解にかかわる交流等を含んだコミュニケーション活動 ○ 生活への転移・発展		

(3) 道徳教育との関連を重視した学習内容の位置付け (視点3)

授業においては、道徳の内容と関連した学習内容を設定したり、相手のことを思いやることの大切さに気付かせるようなスキットを取り入れたりする。また、授業外では外国の方々との国際交流等を行うことで、相手とのかかわり方や互いの文化の共通点や相違点を考えさせることによって、相手を尊重したり、相手と協調したりする態度を育成する。

(4) 各教科等や実生活との関連を重視した学習内容の位置付け (視点4)

各教科等や実生活で得た学びを生かして活動を展開する。例えば、国語科との関連では、第2学年で「スイミー」を設定し、日本語と英語を比較させながら、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。また、総合的な学習の時間の中で、国際理解教育に生かすために、外国には多様な考え方や価値が存在することを実感できるような場面を設定し、外国語活動との内容を関連付けて調べたり、発表したりすることで、探究的な活動に結び付けるようにする。さらに、言語における関連を重視するために、授業で学んだ表現を実生活の中で活用させるようにする。そして、文化における関連を重視するために、文化に対する情報を実際に体験する機会を設定する。例えば、給食において外国の食文化を考えさせたり、クリスマスやハロウィーンの時期において、「ワールドクラブ」等と関連させ、それらを題材とした内容を位置付けていく。

以上のように、言語や文化を体験的に理解するカリキュラムを通して、目指す子どもを育成するためには、図3のように、外国語活動とその他の活動が相互補完し合うような外国語教育の在り方が重要である。また、年間指導計画を柱として三つの観点を発達の段階に沿って高めていく必要がある。なお、子どもの学びの姿から、活動内容、指導方法等を見直し、工夫・改善を図っていくことが重要である。

#### 4 外国語活動カリキュラムの具体化

##### (1) 学習内容の系統性を重視した単元配列の見直し（視点1）

視点1に述べた観点から単元配列の見直しを行う。第6学年の例で示す。

単元名	時数
とっさのひとこと	2
外国に出かけよう	7
外国のことを調べよう	3
夏季休業	
生活習慣を知ろう	4
ハローワールド	4
英語で劇を楽しもう	7
冬季休業	
外国で買い物をしよう	6
とっさのひとこと	2

単元名	時数
まるごとアルファベット	3
とっさのひとこと	3
外国に出かけよう	6
夏季休業	
外国のことを調べよう	3
生活習慣を知ろう	4
秋季休業	
外国で買い物をしよう	4
ハローワールド	4
冬季休業	
英語で劇を楽しもう	4
自分の夢を話そう	4

＜英語ノートとの関連＞

英語ノート2の最初に出てくる単元である。ノートを活用しながら、アルファベットの文字に触れることで、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。

＜長期休業の活用＞

長期休業を利用して、いろいろな施設やインターネット等で調べる機会が増える。実際に海外に出かける子どももいる。「外国に出かけよう」で学んだことを生かし、外国の人とコミュニケーションを図るようにする。また、「外国について調べよう」においては、好きな外国について休業中に調べておくことで、活動への接続がスムーズになる。

＜異学年との関連を考慮＞

同じ買い物の場面を扱う単元を異学年で行うようにすると、下学年で学んだ語彙や表現を活用したり、コミュニケーション能力を発揮させたりできる。また、教具の準備や設営等の接続がスムーズに行える。

＜各教科等との関連＞

卒業する時期に、将来への夢を抱くことができるよう配列した。中学校へのキャリア教育に生かすこともできる。

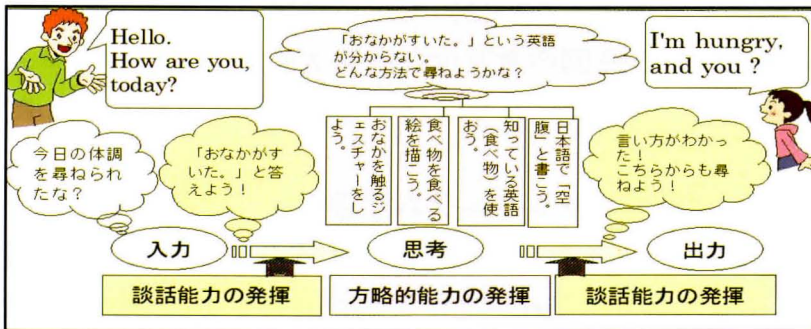
＜道徳教育との関連＞

「伝統文化の尊重」等を扱う時期に合わせることで、自国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けさせる。

##### (2) 体験的な理解を重視した言語活動の充実（視点2）

各学年では、配慮事項を基に、コミュニケーション能力を発揮させながら言語活動を充実させていくことが大切である。例えば、第2学年クリスマスの様子を体験させながら行う「メッセージを送ろう」では、導入時にALTが母国のクリスマスの様子を外国語で話す。子どもはその話を聞くことで、日本のクリスマスとの共通点や相違点を知り、興味をもつようになる。次に、話の中にどのような登場人物が出てきたかを尋ねることで、子どもは必要な外国語に気付く。そして、リズムチャンツやゲーム活動等の体験を通してそれらの言語に慣れ親しんでいく。また、慣れ親しんだ外国語を使って友達や家族へのメッセージを作成することで会話への表現に慣れ親しんでいく。さらに、活動後に気付いたことや考えたこと等を発表させる。このようにして、各々の活動を絡ませながら言語や文化を体験的に理解させていく。

一方、言語力の育成を図るために、スキット2を重視し、コミュニケーション能力を発揮させる。スキット2においては、コミュニケーション能力をより育むためにコミュニケーションギャップを与える。例えば、子どもはALTから今日の気分を話しかけられると、図4のように「おなかがすいた。」と答え、会話を継続しようとする。そして、ALTとの会話が続く、その際、分



【図4 スキット2における言語活動のプロセス】

からない英語の表現に出会ったときは、ジェスチャーや知っている英語等を使って必要な言語を獲得しようとする。さらに、獲得した言語を用いて、相手に思いを伝えていくという一連のプロセスを取り入れることで、互いの思いを分かり合い、より深い理解をすることができる。と考える。



(3) 道徳教育との関連を重視した学習内容の位置付け（視点3）




外国語活動の各単元の目標・内容と、道徳の内容を比較し、学習のどの場面で道徳との関連を生かすことができるかについて考え、表5のように設定した。

【表5：外国語活動と道徳教育との関連】

	外国語活動（単元名、教材費、目標、学習の場面）	道徳（内容）
目標	『料理を作ろう』（「ランチ・メニューを作ろう」（英/）） ・ 日本と外国の料理の違いを知り、言語や文化に関する理解を深めるようにする。 ・ 料理をする場面において、目的や相手のことを考えた表現を使ったり、分からない表現をジェスチャーや絵等を用いて尋ねたりしてコミュニケーションを継続しようとする。	【世界の人々となかよく】 外国の人々や文化を大切に <u>する心</u> をもち、日本人としての自覚をもって世界の人々との親善に努める。
場面	スキット1：どんな場面か見ながら、料理に関する英語の表現や文化について理解しようとする。 プラクティス：ALTの発話を聞くことで、日本と外国の表現の共通点や相違点に理解しようとする。 スキット2：相手とのかかわることの大切さについて考えようとする。 リフレクション：友達や教師の話を書くことを通して、言語や文化についての理解を深めようとする。	【日本のたから】 郷土や我が国の <u>伝統と文化を大切</u> にし、先人の努力を知り、郷土や国を <u>愛する心</u> をもつ。

さらに、表5を踏まえ、単元の系統性や道徳教育との関連を考慮し、表6のように学習内容を設定した。



【表6 単元の系統性や道徳教育との関連を考慮した学習内容の設定例】

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
配慮事項	楽しさ	会話表現への親しみ			生活への転移・発展	
単元名	「英語で遊ぼう」	「英語で遊ぼう」			「英語でゲームを楽しもう」 （英語ノート1「自己紹介しよう」）	
主な語彙や表現	What day is it? It's Monday.	関連・発展	What time is it? It's 7 o'clock.	関連・発展	What's your phone number? It's 099-000-0000.	
コミュニケーション能力の発揮	絵や具体物、ジェスチャーを用いて発話している。	相手に分かりやすく自分の意志を伝えるように考えて発話している。			自己紹介に必要な表現を状況を見て自分たちなりに表現している。	
ことばへの気付き	・ 発音の共通点・相違点 (例:「オレンジ」と「orange」) ・ 多様性 (例:「犬」"dog"に対するイメージ)	・ 相手意識 (例:「Wash <u>your</u> face.」「Wash <u>my</u> face.»)		関連・発展	・ 意味の広がり (例:「May I help you?」「いらっしゃいませ。」「どうしましたか。」) ・ ことばの広がり (例:「サン」と言えば、「sun」「3」「son」等思いつく。)	
活動内容	 天気や曜日等の表現にゲーム等を通じて慣れ親しむ。	 身近なもの表現にスキットづくり等を通して慣れ親しむ。			 英語ノート（「自己紹介しよう」と関連させ、文字にも触れながら自己表現に慣れ親しむ。	
道徳教育との関連（内容項目）	友達と仲よくし、助け合う。(2-(3))	友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。(2-(3))			外国の人や文化を大切に <u>する心</u> をもち、日本人としての自覚をもって世界の人と親善に努める。(4-(8))	
授業後の感想	カレンダーで見る日にちやよう日のえいごとをもちとほなせてたのしかたです。	たくさんの数字の言い方が分かったり、友達と協力してスキットをつくりたりして楽しかったです。			世界の数字の教え方を知ったり、友達といろいろな表現であじさつができて考え方が広がりました。	

(4) 各教科等や実生活との関連を重視した学習内容の位置付け（視点4）

新しい学校づくりに伴い、外国語活動の授業との関連がより一層図られるようになった。中でも、朝の活動「ワールドタイム」は、全校児童が一体となり、外国語を通じて、多様な活動に取り組ながらかかわりを楽しむことのできる時間である。外国語活動の学習内容と関連させて活動させると、体験的な理解がより深く得られると考える。

【表7 朝の活動と外国語活動との関連】

全学年：「ワールドタイム」	関連	第6学年：「外国のことを調べよう」
ねらい： <u>友達と積極的にコミュニケーションを図りながら、外国の文化について知るとともに、外国の特徴を表す英語に慣れ親しむことができるようにする。</u>		ねらい： <u>友達と積極的にコミュニケーションを図りながら、外国の有名なものを調べ日本のものと比べながら、それぞれの国のよさに気付くことができるようにする。</u>
 【活動内容】 教師が用意した世界の国に関する問題を友達と協力して考えながら解き、世界の様子について知る。		 【活動内容】 友達と協力しながら外国のことを調べ、クイズを作り英語の表現を使って問題を出す。

### Ⅲ 研究の実際

#### 1 実践の立場

ここでは、コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの姿を目指すために、コミュニケーション能力の素地を養う三つの観点と本校におけるコミュニケーション能力を重視して授業を実践していく。そして、授業で見られた子どもの姿からカリキュラム創造の視点を基に、カリキュラムの有効性を検証していく。

#### (1) 実践における評価の内容

- ① 自他との表現の仕方や考え方等の違いを理解し、自分の思いや考えを広げようとする姿が見られたか。 **【言語や文化についての体験的な理解】**
- ② 相手や場面に応じた表現を用いながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られたか。 **【コミュニケーションへの積極性】**
- ③ 様々な場面における外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しもうとする姿が見られたか。 **【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】**
- ④ ALTや友だちの意見を大切にしながら、コミュニケーションを何とか継続させようとする姿が見られたか。 **【コミュニケーション能力】**

#### (2) 見取る方法

○教師による観察（発表・行動等） ○自己評価カード ○デジタル・ポートフォリオ（視聴覚機器の活用） ○相互評価

#### 2 第5学年 外国語活動 年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
単元名	を英語でもゲーム④	う町④に出かけよ	④料理を作ろう		夏季休業	出レかけよう⑤	電話で友達と話そう 秋季休業	をハロウィーン④	ひとつの②	冬季休業	ドハローワール⑤	作時間割③	春季休業
体験的な理解を重視した言語活動の充実	いろいろな国のあいさつや表現の豊かさや面白さ等に気付かせる。	道案内をするときの表現の仕方について考えさせる。	料理を作るときの表現の仕方について考えさせる。		レストランで料理を注文するとき等の表現の仕方について考えさせる。		電話のやりとりの仕方について考えさせる。	ハロウィーンをする際の表現について考えさせる。	同音異義語や相手や場面に応じた言語に気付かせる。		国名や国旗の特徴を表す英語の豊かさや面白さ等に気付かせる。	教科等を表す英語の豊かさや面白さ等に気付かせる。	
ゲーム、リズムチャンツ、クイズ、スキットづくり、歌、ごっこ遊び、クリスマスやハロウィン等、年間を通して行う。													
道徳教育との関連	異文化理解	異文化理解、協力、助け合い						異文化理解 思いやり、親切	異文化理解、愛国心、郷土愛	思いやり、親切	異文化理解、愛国心、郷土愛		異文化理解
各教科等との関連	国語「どうぞよろしく」算数：数領域		家庭「わたしも料理名人」				国語「敬語」	社会「日本と関係の深い国々」朝の活動「ワールドタイム」		社会「日本と関係の深い国々」朝の活動「ワールドタイム」		国語「和語・漢語・外来語」	
音楽では、リズムや歌活動、図工では作品づくり等、年間を通して関連させる。													
英語ノートとの関連	「世界のこんにちはを知ろう」「自己紹介をしよう」「数で遊ぼう」	「道案内をしよう」	「ランチ・メニューを作ろう」		「外来語を知ろう」		「できることを紹介しよう」	「カレンダーを作ろう」	「ジェスチャーをしよう」		「いろいろな衣装を知ろう」「外来語を知ろう」	「時間割を作ろう」	

3 第5学年「時間割を作ろう」における実践

(1) 本単元における「コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子ども」の姿

【発達の特性】

言葉の豊かさや面白さに気付いたり、自他とのかかわり（相手の立場に立つ。協力する等）の大切さについて考えたりして、活動や自分のよさを認め、喜びを味わおうとする。

【単元の価値】

自分たちなりの時間割を作る場面において、新たに取り扱う教科等を示す表現の豊かさや面白さについて気付いたり、英語を使うことの楽しさや思いを伝えることができる喜びを味わったりするようになる。

【コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの姿】

- 言葉の豊かさや面白さに気付いたり、ものの見方や考え方が広げたりしようとする子ども
- それぞれの活動や場面の中で、自他と協調することを楽しもうとしている子ども
- 教科等や曜日を表す英語のリズムや表現に慣れ親しもうとしている子ども
- 教科等を表す英語が分からないときに、ジェスチャーや知っている英語を使う等してALTや友達に尋ね、コミュニケーションを継続しようとする子ども


(2) 単元の目標

- 外国の小学生が学ぶ教科等や時間割りについて知ることができるようにする。 【言語や文化の体験的な理解】
- 教科等や曜日を表す英語の表現を使って、ゲーム活動等を積極的に楽しむことができるようにする。 【コミュニケーションへの積極性】
- 教科等や曜日を表す英語や教科等を尋ねる英語の表現に慣れ親しむことができるようにする。 【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】
- 教科等を表す英語が分からないときに、ジェスチャーや知っている英語を使う等してコミュニケーションを継続することができるようにする。 【コミュニケーション能力】





(3) 設定した学習内容

	学 習 内 容
コミュニケーション場面	①いつ：自分たちなりの時間割を作るとき（教科等によって、表現が違ってくることを考えさせる。） ②どこで：教室の中で ③だれと：グループのメンバー ④どんなことを：教科等を表す表現（相手に分かりやすい表現を考えさせる。）
コミュニケーションの働き	・質問する ・説明する。 ・応答する。 ・お礼を言う。
言語活動	・歌 ・リズムチャンツ ・プラクティス ・ゲーム活動 ・時間割作り
コミュニケーション能力	○方略的能力：ジェスチャー、知っている英語等を使って尋ねようとする。 ○社会言語的能力：場面や相手、状況に応じて適切な表現を使おうとする。
語彙や表現	① A : What subject is it ? ② A : What day is it ? J : It's Math, Science ~ . J : It's Sunday, Monday ~ . ③ A : What do you study ? ④ English, P.E., Japanese, Art ... J : I study Math. Tuesday, Wednesday, Thursday ...

(4) 指導方法の具体例

① 板書や提示の仕方の工夫	② 教師の発問の工夫	③ 活動の工夫
 <p>曜日や教科の絵カードを提示</p> <p>視聴覚機器を活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでのスキット1と違うところや気付いたこと等はないか。</li> <li>・ 言語や文化について日本と外国の場合と共通点や相違点はあったか。</li> <li>・ 友達の発表で気付いたことや考えたこと、思ったこと等はないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語やジェスチャー等を用いて相手に伝える喜びを味わわせるために、ALTが伝えた表現を反対側に並んでいる友達に推測させるエスパーゲームを取り入れる。</li> <li>・ 言語や文化を理解させるために、英語ノートを使った時間割作りをさせる。</li> </ul>

(5) 「時間割を作ろう」指導計画（全4時間）

過程	主な学習活動	主な語彙や表現	子どもの思い・つぶやき等		
意欲をもつ	1 時間割の準備をするスキットを見る。	<b>【Skit 1】</b> J: Please teach me. What subject is it tomorrow? A: It's Math, Science and Art. J: Thank you. A: You're welcome. J: See you tomorrow.	今日はどんな場面かな？		
	2 本時の学習場面や必要な外国語について話し合う。		聞いたことがある英語があるよ。 「P. E.」って何かの略かな？		
つかむ	3 ALT とスキット1に挑戦する。	What day is it? It's Thursday. It's Wednesday.	“Math”は算数科だね。		
	4 リズムチャンツを行う。	<b>《Rule》</b> ① 教科等を表す絵カードを3枚選ぶ。 ② ALT が言ったキーワードのグループは席を移動する。(例：“English”と言ったら英語のグループが移動する。) ③ “Subjects Basket!” とゲームマスターが言ったら全員移動する。座れなかった人はゲームマスターになり、キーワードを言う。	 【写真1 ゲームに取り組む子どもたち】		
	5 サブジェクトバスケットゲームを行う。				
挑戦する・広げる	6 分からない英語を尋ねるスキット2を見る。	<b>【Skit 2】</b> What do you study? I study “書写”. ?? どのような方法でスネラー先生に尋ねようか？	「天文学」の英語を知りたいから、星の絵を描いたり,star等の知っている英語を使ったりしてスネラー先生に尋ねたよ。		
			国語の教科書を見せては？ 字を書くジェスチャーをしては？ “Japanease”等の知っている英語を使ってみては？	 【写真3 オリジナル時間割】	
	7 グループで独自の時間割を作る。		国語の教科書を見せては？ 字を書くジェスチャーをしては？ “Japanease”等の知っている英語を使ってみては？		・テーマを決め、一人1日分を作成すること。 ・自分の作ってみたい教科等を考えもよいが、友達に納得させられるものであること。
			 【写真2 時間割をつくる子どもたち】		
振り返る	8 作った時間割を発表する。	<b>【子どもの発表例】</b> C: On Monday, I study P.E.and music. 音楽の後に体育を入れたのは、音楽で学んだ曲を生かして、ダンスをしたいからです。	友達に自分の思いが伝わってうれしかったです。		
	9 感想発表をし、本時の振り返りをする。			 【写真4 発表する子どもたち】	

目指す子どもの姿

教師の働きかけ・発問

スキットを見て、明日の時間割を尋ね、授業の準備をする場面であることに気づき、学習内容を把握しようとしている。

時間割を友達に尋ねる場面であることに気付かせるために、教科書の写真を提示したり、時間割を尋ねるスキットを見せたりして臨場感を出す。

教科等を表す英語について、表記の仕方や発音の仕方について、気づき、理解しようとしている。

言葉の面白さや豊かさに気付かせるために、スキット1で気付いたこと等はないか問いかけるようにする。

英語ノートに記載されている教科書の絵や文字等から、日本と外国の教科等のとらえ方等に相違点や共通点があることに気づき、友達に伝えようとしている。

「気付いたことや思ったことはありませんか。」



内容の系統性を意識させるために、“Math”“Music”等は第3学年の外国の学校生活を学ぶ単元で学習したことを比較させながら想起させる。

外国の学校における教科等に気付かせるために、ALTの国の教科等名やその内容を紹介する。

ゲーム活動を通して、教科等を表す英語に慣れ親しみながら、友達と楽しくコミュニケーションを図ろうとしている。

教科等を表す英語に慣れ親しませるために、体を動かして発話する「サブジェクトバスケットゲーム」を取り入れる。

スキット2を見て、分からない英語があったときに、ALTにどのように尋ねれば思いが伝わるか考えようとしている。  
・絵やジェスチャーを使う。  
・知っている英語を使う。等



分からない英語があった場合、ALTにどのような方法で尋ねれば、英語を教えてもらえるか考えさせるスキットを取り入れる。

「分からない英語があったら、どのようにスネラー先生に尋ねますか。」

ALTだけでなく、JTEや友達にも尋ねながら、コミュニケーションを継続させ、協力して問題を解決させる。

ALTやJTE、友達に自分なりの方法で必要な英語を尋ねながら、コミュニケーションを継続させ、オリジナルの時間割づくりを楽しもうとしている。

時間割をつくる中で外国語の音声やリズム等に慣れ親しんだり、言葉の面白さや豊かさに気付いたりしている。



グループで発見した外国と日本の言語や文化についての共通点や相違点については、全体の場で発表させることによって考えや思いを広げさせるようにする。

【写真5 言葉の面白さや豊かさに気付く子どもたち】

オリジナルの時間割を作る中でALTやJTE、友達の意見を大切にして、修正・改善しようとしている。

「道德」って“moral”という英語を使うんだね。釣りは“I study～”でなく“I go～”と表現するんだね。

時間割作りをする中で達成感を味わわせるために、互いによいところや改善すべきところを話し合いながら作り上げさせる。

自分の思いを相手に表現することの喜びを味わったり、英語を使えた達成感を味わったりしている。

自他の成長に気付かせるために、言えるようになった英語や楽しくできた活動をもとに称賛する。

## 4 実践の結果と考察

本実践では、コミュニケーション能力の素地を養う三つの観点において以下のような子どもの姿が見られた。

【表8 実践に見る「コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの姿」】

目標	コミュニケーションを通して、自他と協調する喜びを味わう子どもの姿
言語や文化の体験的な理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科等を表す外国語には、様々な表現があることや、日本語と同じように略語があることを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くことができた。</li> <li>外国には日本の教科等以外にも様々な教科等があることに気付くことができた。</li> </ul>
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して相手の思いを大切に時間割を作ったり、分からない英語を自分なりの方法でALTに積極的に尋ねたりする中で、相手とかかわるよさや英語を用いて自分の思いを伝える喜びを味わっていた。</li> </ul>
外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムチャンツやゲーム活動を通して、教科等や曜日を表す外国語の音声や表現に慣れ親しむようになった。(例：“What do you study?” “I study Math.”)</li> <li>外来語のもとである英語を実際に発話してみることにより、外来語との違いを実感することができた。(例：“モラル” → “moral”，“スポーツ” → “sport”)</li> </ul>

このような子どもの姿から、カリキュラム創造の四つの視点を基に、本カリキュラムの有効性を考察した。まず、「系統性を考慮した学習内容の設定」及び「体験的な理解を重視した言語活動」では、第3学年「Tomの学校」において、扱う語彙や表現が日本の学校で学ぶ教科等であったのに対し、第5学年「時間割を作ろう」では、世界における学校の教科等の語彙や表現に発展する。これは、日本以外の国の時間割を知り、教科等について共通点や相違点に気付くことで、子どもの興味が世界に広がることにつながったと考える。そして、ALTやJTE、友達に気付いたことや考えたことを学んだ英語や日本語で伝え合うことで喜びを実感し、より体験的な理解を重視した言語活動が行えたと考える。

また、「道徳教育との関連」として、相手の思いを大切にしながら活動ができ、有効であった。内容面の関連性が今後も重視されると考える。

さらに、各教科等や実生活との関連を重視する内容の位置付けに関しては、音楽科や図画工作科等において、日本や外国の言語や文化についての理解という点で共通性があり相互に有効であると考えられる。

## IV 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- 新学習指導要領に対応し、学校教育目標を具現化していくために、言語や文化の体験的な理解を重視したカリキュラムの考え方を明らかにすることができた。
- 目指す子ども像やカリキュラム創造の考え方を明らかにし、年間指導計画を中心としたカリキュラムを創造することができた。
- カリキュラムの全体像を構想することで、外国語教育や一単位授業のねらいを系統的に捉えて、言語や文化を体験的に理解させるうえで必要なことを明確にした指導を考えることができた。
- 言葉の面白さに気付いたり、文化の共通点や相違点を見つけたりすることで、自分の思いや考えを伝え合い、そこに喜びを見出す子どもが増えてきた。

### 2 研究の課題

- 指導と評価の一体化を図り、今回作成したカリキュラムを実証し、評価の在り方を検討し、カリキュラムを改善していく必要がある。
- 今回設定したカリキュラム創造の視点をより具体化するための学習指導の在り方を明らかにし、一単位時間の授業を充実させていく。

#### 【参考文献】

- |  |                   |
|--|-------------------|
| ○ 文部科学省「小学校学習指導要領解説外国語編」               | (東洋館出版社 平成20年)    |
| ○ 文部科学省「小学校外国語活動研修ガイドブック」              | (旺文社 平成20年)       |
| ○ 兼重 昇・直山木綿子編著「小学校新学習指導要領の展開 (外国語活動編)」 | (明治図書 2008年)      |
| ○ 卯城祐司・蛭田 勲著「小学校教育課程講座 外国語活動」          | (ぎょうせい 2009年)     |
| ○ 大津由紀雄著「ことばの力を育む」                     | (慶應義塾大学出版会 2008年) |